

吉田 芙希子 個展  
YOSHIDA Fukiko solo exhibition  
美的男子 在ル世界  
Aesthetic boy



www.kunstarzt.com



KUNST ARZT では、吉田芙希子の個展を開催します。  
吉田芙希子は、憧れの美青年を追求し続けるアーティストです。  
その彼をフューチャーするための装飾部分をプラスすることによって、独自の世界を構築しています。  
本展では、ハイブリッド化していく現代を反映し、これまで敢えて避けてきたエキゾチックな装飾を取り入れ、アーティストの代名詞的に扱われるレリーフ形態ではなく、油彩表現（そもそも京芸油画卒）をメインに構成するという2つの挑戦があります。  
ご注目ください。

(KUNST ARZT 岡本光博)

経歴

1988 滋賀生まれ、京都を拠点に活動

2011 京都市立芸術大学美術学部油画専攻 卒業  
2013 京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻油画 修了

<主な個展>

2015 メレンゲの部屋、KUNST ARZT、京都  
2013 夏の夜の夢を見る、H. P. FRANCE WINDOW GALLERY、東京

<主なグループ展>

2018 第21回岡本太郎現代芸術賞展、川崎市岡本太郎美術館、神奈川  
2018 FACE II、gallery morning、京都  
2018 Mellow in May、Shonandai Gallery、東京  
2017 唐仁原希・吉田芙希子「Septile」、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都  
2016 第14回グラフィック「1\_WALL」展、ガーディアン・ガーデン、東京  
2016 BIWAKO 大賞展、滋賀県立近代美術館、滋賀  
2016 琳派400年記念 新鋭選抜展～琳派 FOREVER～、京都府立京都文化博物館、京都  
2015 琳派400年記念 新鋭選抜展～琳派の伝統から、RIMPAの創造へ～、京都府立京都文化博物館、京都  
2015 Make up | 過去・未来・現在 | [shu uemura・京都市立芸術大学ビジュアルデザイン主催]、  
京都市立芸術大学 大学会館ホール、京都  
2013 アートアワードトーキョー丸の内2013、行幸地下ギャラリー、東京  
2013 京都市立芸術大学 作品展、学内アトリエ棟、京都  
2012 アートピーポー・マッピング、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都

<レジデンス>

2016 アーティスト・イン・レジデンス、滋賀県立陶芸の森、滋賀

<コレクション>

京都市立芸術大学資料館、京都銀行、三菱地所

2019年9月7日（土）から15日（日）

12:00 から 18:00 月曜日休み

会 場：KUNST ARZT

605-0033 京都東山区三条神宮道北東角 2F

問い合わせ



KUNST ARZT 代表 岡本光博

090-9697-3786

kunstarzt@gmail.com

● 展覧会コンセプト

近頃とても気になる中国風、今流行ってますよね？  
らんま 1/2 のリアル  
なんかもさ可愛い中国エッセンス、エトセトラ

私は美青年と装飾を組み合わせ、作品を制作してきました。

私の美青年のルーツは、昭和の少女漫画に出てくる、日本語を話す西洋の男の子です。  
彼らの多くは、彼らと親和性の高い西洋風の装飾と共に描かれてきました。  
私は今まで、美青年を彩る装飾において、他のエキゾチックなモチーフを避け、  
当たり前のように西洋風の装飾を主に選んできました。

中国風然り、和風も“日本っぽいもの”という、ある意味エキゾチックな物の一つのように思います。  
ある装飾を〇〇風ということは、ざっくりとその世界観を囲い、その世界の特徴を大まかに決定して、  
大体わかった、ということを表します。  
私は他の〇〇風な装飾を使うことで、そのジャンルから見た美青年像が、  
より狭い世界の中の存在になってしまうことを恐れていました。

しかし、装飾とは本来、様々な文化が影響を与え合って形作られてきたものです。  
実際それぞれのジャンルの装飾の間には、はっきりとした境界は無く、地続きに繋がっています。  
それは装飾という、一つの世界のようなものなのだと思います。  
つまり〇〇風とは、ジャンルごとに区切られた狭い世界の中のものではなく、  
大きな世界の一片を見る、窓のようなものなのです。

私は美青年を通して、その世界を見たいのだと思います。  
今回の展覧会は、中国風の窓からお届け致します。

● アーティスト・ステートメント

私は憧れの美青年像を制作しています。  
彼を線で描きます。すると彼は出現します。  
彼を象徴する装飾を描き足します。その装飾は、彼を取り巻く“空気”のようなものです。  
私がみている彼がいる景色は、風景ではなく、世界なのだと思います。



花と青年 / Flower and the Man  
2018  
H427mm×W360mm  
石粉粘土、胡粉塗装 / Stone clay, Coating material



少年の日と風 / A boy's day and wind  
2018  
H900mm×W580mm  
石粉粘土、胡粉塗装 / Stone clay, Coating material